



墨東病院

〒130-8575

東京都墨田区江東橋四丁目23番15号

電話 03-3633-6151

病院の概要

墨東病院は東京都の区東部（墨田区、江戸川区、江東区および葛飾区の一部）の約百数十万人の医療圏をカバーする広域基幹病院です。周辺に同様の病院が少ないことから、地域の最終病院としてニーズに応えていく必要がある病院です。

病院の特徴としては、三次救急を含む総合救急体制である「東京ER・墨東」、周産期医療、精神科救急が有名ですが、それ以外にも地域がん診療連携拠点病院としての側面や、新型コロナウイルス感染症の蔓延が始まってからは、病院を挙げて多くの中等症以上の患者への対応を行っています。

当院の特徴としてはなんといっても救急診療です。1次、2次の救急診療部(ER)、自己完結型の救命センター、集中治療室に加え、新生児・産科・循環器科・脳卒中・精神科などあらゆる診療科が救急医療に対応しています。

■ 診療科目

内分泌代謝内科 脳神経内科 血液内科 消化器内科 呼吸器内科 腎臓内科 総合診療科 循環器科
 神経科 小児科 外科 心臓血管外科 呼吸器外科 整形外科 脳神経外科 形成外科 皮膚科 泌尿器科
 眼科 産婦人科 新生児科 耳鼻咽喉科 リハビリテーション科 リウマチ膠原病科 歯科口腔外科
 感染症科 救急診療科 救命救急センター 集中治療科 麻酔科 診療放射線科 輸血科 内視鏡科 検査科

■ 基幹施設となる診療科（括弧内は連携施設病院）

- ・内科 (広尾/大久保/大塚/駒込/豊島/荏原/多摩総合/東部/神経/松沢/
東京医科歯科大学医学部附属病院/筑波大学附属病院/筑波記念病院/同愛記念病院/東京ベイ・浦安市川医療センター/
国立循環器病研究センター/静岡がんセンター/国立国際医療研究センター国府台病院/東京大学医学部附属病院/
千葉大学医学部附属病院/日本医科大学千葉北総病院/奈良医科大学附属病院/榊原記念病院/大森赤十字病院/
東京北医療センター/青梅市立総合病院/横須賀共済病院/国立がん研究センター中央病院/JAとりで総合医療センター/
静岡てんかん・神経医療センター/川西市立総合医療センター/東京大学医科学研究所附属病院/哲西町診療所(岡山)/島しょ等)
- ・外科 (広尾/大塚/駒込/豊島/荏原/東部/小児総合/
獨協医科大学埼玉医療センター/国立がん研究センター中央病院/島しょ等)
- ・産婦人科 (東京大学医学部附属病院/聖路加国際病院/順天堂大学医学部附属順天堂医院/焼津市立総合病院/公立昭和病院)
- ・小児科 (神経/小児総合/聖路加国際病院/東京大学医学部附属病院/国立国際医療研究センター国府台病院/
獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター)/島しょ等)
- ・精神科 (小児総合/松沢/東京医科歯科大学病院/東京足立病院/成増厚生病院/
国立精神・神経医療研究センター病院/精神保健福祉センター/埼玉県立精神医療センター/
大宮厚生病院/国立国際医療研究センター国府台病院/初石病院)
- ・麻酔科 (広尾/大久保/大塚/駒込/豊島/荏原/多摩総合/多摩北/東部/神経/小児総合
順天堂大学医学部附属順天堂医院/かわぐち心臓呼吸器病院/越谷市立病院)
- ・皮膚科 (広尾/大塚/駒込/多摩総合/防衛医科大学校病院)
- ・救急科 (小児総合/東京大学医学部附属病院/東京ベイ・浦安市川医療センター/帝京大学ちば総合医療センター/
前橋赤十字病院/島根県立中央病院/島しょ等)
- ・総合診療科 (聖母病院/篠崎駅前クリニック/クリニック川越/揚石医院/岩手県立千厩病院/
岩手県立高田病院/一関市国保藤沢病院/岩手県立大東病院/島しょ等)

■ 連携施設となる診療科（括弧内は東京医師アカデミーにおける基幹施設病院のみ掲載）

- ・内科 (広尾/大久保/大塚/駒込/豊島/荏原)
- ・精神科 (松沢)
- ・整形外科 (多摩総合)
- ・麻酔科 (広尾/大塚/駒込/豊島/荏原/多摩総合/東部)
- ・泌尿器科 (駒込)
- ・病理科 (駒込)
- ・放射線科 (駒込/多摩総合)

臨床研修管理委員会委員長からのひとこと



脳神経内科医長
水谷 真之

当院は東京都の区東部医療圏をカバーする広域基幹病院で、高度先端医療、多種領域の救急医療、かかりつけ医と様々な側面を有しています。当院のアカデミー生は、当院初期研修を含めた様々な出身の先生方が年々増えていて、2023年度は64名在籍しています。多くの仲間と切磋琢磨し、各科で救急患者を含めた豊富な症例に対応することで、修練を積んで行くことができます。また、多くのアカデミーの卒業生が常勤医となり、墨東病院の屋台骨となって、アカデミー生、初期研修医を教育する体制が確立されてきていることも当院の強みの一つと考えています。

一緒に墨東病院を支えるやる気のあるスタッフを募集しています。是非一緒に働いて、墨東病院をより発展させていきましょう。

シニアレジデントからのひとこと①



救急科
3年次
井上 謙

私は他院で初期研修を修了し、後期研修から墨東病院へ入職しました。初期研修中に救急集中治療医を志し、あらゆる重症患者に対して蘇生を施し、入院後の集中治療を自信を持って行えるようになりたいと考えていました。墨東病院の大きな特徴の一つは、1つの初療室にCTや透視が搭載されている hybrid ER システムが導入されており、スピード感のある蘇生を実現することができることです。見学の際に、3次救急患者の初療対応を見たときの衝撃は今でも忘れることができないほど印象に残っています。加えて日頃から診療に対して指導医による手厚いフィードバックがあり、定期的に集中治療科とも合同の勉強会を行うことで充実した教育を受けることができます。また、自らが蘇生を担当した患者さんに対して、初期対応や急性期の全身管理だけでなく、集中治療室退室後の一般病棟管理や退院・社会復帰に至るまで携わることができる点は医師としてのレベルを大きく引き上げてくれていることを日々感じています。集中治療科が運営するICUは教育体制が充実しており、希望に応じて他科研修を行うことで、初期研修の2年間での苦手を克服したりカテーテル手技などを身につけることもできますし、連携施設での研修では大学病院のICUや北米型ER、離島医療など幅広い経験を積むことができます。このように、当院での救急科後期研修は非常に充実した環境で学ぶことができ、ここで後期研修を行ってよかったと日々感じています。ぜひ一度見学にいらしてください。みなさんと一緒に働けることを楽しみにしております。

シニアレジデントからのひとこと②



内科(リウマチ膠原病科)
2年次
菅原 啓太

私は墨東病院で初期研修を行い、そのまま内科の後期研修医として墨東病院に残りました。初期研修から後期研修になる際には別の病院を選択する方も多いと思いますが、私は内科医としての基盤を身につけるべく初期研修と同じ墨東病院で後期研修をすることを選択しました。

墨東病院は区東部に位置し、救急医療や高度先進医療、かかりつけ医等々、様々な役割を担っている病院です。そのため、必然的に Common な疾患から稀有なものまで豊富な症例を幅広く経験することができます。それに加え、地域の特性上、幅広いバックグラウンドをもつ患者さんを担当することができます。病気のみならず、多職種との医療連携を通じて人々の生活・人生を支える一端を担うことができます。初期研修では自然と病気や治療に目が行きがちですが、それだけでは医師としては不十分です。病気を含めた患者さんの生活にまで目を向けることで、責任感が芽生え、医師としての素質を大きく引き伸ばすことができると思います。

また、熱心で優秀な指導医が多く在籍していることも魅力です。日々の診療に加えて、内科専門医の取得に必要な J-OSLER の病歴要約の添削や学会発表の準備まで、熱く、そして丁寧に指導していただけます。豊富な経験に加えて正しい知識を身につけることが医師としての臨床能力を磨くことに繋がるのだと日々実感しております。

興味をもった方はぜひ一度見学にいらしてみてください。墨東病院で一緒に働くことができるのを楽しみにしています。